

いのちあふれる美しい地球を次世代へ 第28回 環境活動助成公募を開始

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）は、6月1日より、28回目となる環境活動助成公募を開始します。

1991年より継続している本事業は、生物多様性保全と持続可能な利用のため、世界各地において、積極的に環境保全活動に取り組まれている団体に対し、助成を行うもので、本年も総額1億円の助成を予定しております。これまでの27年間で、のべ2,846団体、総額約26億円の助成を実施しています。

当財団は、いのちあふれる美しい地球を次世代へ引き継ぐため、これからも植樹活動や助成事業を通じた環境保全活動に積極的に取り組んでまいります。

記

【第28回 環境活動助成公募 概要】

- ・基本テーマ：生物多様性保全と持続可能な利用のために
- ・活動分野：1. 植樹 2. 里地・里山・里海の保全・河川の浄化
 3. 環境教育 4. 野生生物・絶滅危惧種の保護
- ・助成総額：総額 1億円
- ・助成対象：2019年4月1日～2020年3月31日の期間中
 実地を伴う活動に積極的に取り組んでいる団体
- ・募集期間：2018年6月1日～8月20日
 ※事前説明会を開催します。（群馬県高崎市・東京都千代田区・
 千葉県千葉市）
 詳細はホームページに掲載 <http://www.aeon.info/ef/>

なお、本年新たに「環境活動報告会」を実施します。これは、助成先団体の活動を地域の皆さまと共有する場であり、また環境保全活動への理解と積極的な参加を呼び掛ける機会でもあります。初回は、6月15日（金）から17日（土）までの3日間イオンモール高崎（群馬県）で開催される「みなかみユネスコエコパーク登録1周年記念フェア」に合わせ実施いたします。

【環境活動報告会】

- ・日 時：2018年6月17日（日）14時～15時
- ・会 場：イオンモール高崎（住所：群馬県高崎市棟高町1400番地）
1階 専門店セントラルコート
- ・内 容：環境活動助成団体による活動内容の発表
- ・発表団体

団体名	活動内容
NPO法人草の根国際協力研修プログラム (群馬県)	タイ国山岳少数民族居住山村の持続可能な森林環境の 保全と生活 環境の改善に資する活動
森林塾 青水 (千葉県)	群馬県みなかみ町藤原上ノ原にある草原および 隣接する雑木林の保全・再生と、利用しつつ次世代 につなぐ流域コモンズ※づくり
NPO法人 地球の緑を育てる会 (茨城県)	筑波山水源の森づくり

※コモンズ：共有地を皆で支えるシステム

【みなかみユネスコエコパーク登録1周年記念フェア】

- ・日 時：6月15日（金）～17日（日）
- ・場 所：イオンモール高崎セントラルコート
- ・主 催：みなかみユネスコエコパーク、公益財団法人イオン環境財団
- ・内 容：記念セレモニー、ステージイベント、ワークショップ、商品販売、パネル展示

以上

【ご参考】

【公益財団法人イオン環境財団について】

当財団は「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、1990年に設立。以来、環境活動に取り組む団体への助成・支援、世界各地における植樹活動、生物多様性の保全などに貢献した団体・個人への顕彰、環境人材育成のための環境教育を主な事業として、さまざまな環境・社会貢献活動に継続し取り組んでいます。

(公益財団法人イオン環境財団ホームページ：<http://www.aeon.info/ef/>)

《日本ユネスコエコパークネットワークとの連携協定について》

当財団は、2017年8月、日本ユネスコエコパークネットワークと国内初となる連携協定を締結しました。本連携協定は、「生態系の保護・保全のみならず、自然と人間社会の共生に重点を置く」というユネスコエコパークの理念に当財団が賛同し締結したものです。両者は本協定のもと、次代を担う子どもたちへ豊かな自然を届けるため、「1. 生物多様性の保全 2. 持続可能な資源利用と発展 3. ユネスコエコパークを利用した環境教育 4. ユネスコエコパークの価値と知見の啓蒙」について連携し取り組んでいます。

《公益財団法人イオン環境財団の活動について》

■植樹活動

行政と協力し、自然災害などで荒廃した森を再生させることをなど目的として、日本はもとよりアジアを中心とした世界各地で植樹を行っています。

2018年度は国内では全国植樹祭ふくしま（福島県南相馬市）、三重県松坂市、宮城県亘理町、宮崎県綾町、大分県竹田市、千葉県千葉市、海外は中国の北京市、ミャンマーのヤンゴン、インドネシアのジャカルタにおいて植樹活動を実施予定です。



第5回 ミャンマー・ヤンゴン植樹

■環境教育事業

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的として、アジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について国境を越えて討議をする、「アジア学生交流環フォーラム（ASEP）」を実施しています。第7回となる2018年度は、マレーシアにて「熱帯雨林からの贈り物」をテーマに王立プノンペン大学（カンボジア）、清華大学（中国）、インドネシア大学（インドネシア）、早稲田大学（日本）、高麗大学校（韓国）、マラヤ大学（マレーシア）、ベトナム国家大学ハノイ校（ベトナム）、チェラロンコン大学（タイ）、ヤンゴン経済大学（ミャンマー）の9ヶ国、計72名の学生が参加し実施する予定です。



第6回ASEP開講式
（早稲田大学大隈講堂）

2017年10月13日（金）には、王立プノンペン大学（カンボジア）にて、国際的な視野で生物多様性の価値を問い直し、新たな価値共有ができる教育を行うことを目的とした「生物多様性を越えて2017」を開催しました。2018年度は9月23日にインドネシアで実施予定です。



第2回生物多様性を越えて
（カンボジア王立プノンペン大学）

■連携事業

生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的として「生物多様性みどり賞（国際賞）」と「生物多様性日本アワード（国内賞）」の2つのアワードを創設し、隔年で顕著な環境保全活動が認められる個人・団体を顕彰しています。2017年度は、第5回「生物多様性日本アワード（国内賞）」を実施しました。2018年度は、第5回「生物多様性みどり賞（国際賞）」を実施予定です。



第5回「生物多様性日本アワード」授賞式
（国連大学）